

(9) スモモ

〔果樹類>落葉果樹>核果類>小粒核果類>すもも〕

① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
【病害全般】	[耕種的防除]	・果実の病害虫被害を予防・軽減するために、袋かけ栽培が望ましい。
灰 星 病	開 花 期 および 果実肥大終期	・花では、花弁やガクが腐敗して褐変する。成熟期の果実で発病すると褐色に軟腐し、果実全体が灰色の胞子で覆われる。 ・雨が多いと発生が増加する。 ・花腐れを防ぐには、開花直前と満開直後に薬剤を散布する。 ・果実に少しでも発生すると、急激に二次感染が進むので、収穫の1か月前～収穫直前に薬剤を散布する。
ふくろみ病	休 眠 期 ～ 開 花 直 前	・開花終了後まもなく果実が異常生育し、豆さや状に肥大する。 ・「ソルダム」系品種は発病しやすいので、対策が必須である。 ・発生に気付いた時点で手遅れなので、必ず休眠期や発芽前に薬剤を散布する。 ・ <u>休眠期防除参照</u> 。
環 紋 葉 枯 病	生 育 期	・収穫期～梅雨明けの期間が低温多雨で推移すると、谷合などで発生しやすい。 ・発生初期に防除する。
黒 斑 病 か い よ う 病	[耕種的防除]	・スモモに発生する細菌病として、黒斑病(モモのせん孔細菌病と同一の細菌)やかいよう病がある。 ・枝や果実表面のキズを防ぐため、防風垣や防風ネットを設置する。
	休 眠 期	・ボルドー剤を散布する。
	生 育 期	・袋かけが終了するまでの防除には、毎回、生物殺菌剤を混用し、感染予防に努める。ただし、抗生物質薬剤は生物殺菌剤の生菌を死滅させるため、生物殺菌剤と抗生物質薬剤は混用しない。 ・暴風雨が発生した場合は、速やかに抗生物質薬剤を単剤で散布する。
切り口および傷口 の ゆ 合 促 進	剪定整枝時、 病患部削り取り 直後、及び 病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
アブラムシ類	展 葉 期 ～ 新 梢 伸 長 期	・モモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ等が加害する。 ・常に軟らかな新葉部分から吸汁し、葉巻き症状を引き起こす。 ・スモモの葉が硬化する5月下旬以降は別の植物へ移動し、10～11月にスモモ樹に帰ってきて産卵し越冬する。
コスカシバ	休 眠 期 (開花期まで)	・幼虫は樹皮下で越冬し、翌春も食害を続け、樹皮下で蛹化する。越冬幼虫の発育は不揃いで、成虫になる時期も揃わないため、成虫の発生期間は5～10月と幅がある。 ・あらかじめ虫糞を取り除き、樹幹部および主枝に薬剤を散布する。 ・新芽の薬害を避けるため、萌芽前に散布を終える。
	幼 虫 発 生 期	・主幹や主枝、特に虫糞が見られるところを中心に薬剤を散布する。 ・生物農薬は、効果を高めるために晴天時の散布は避け、曇天または少雨時に散布するのが望ましい。
	成 虫 発 生 初 期 (5月上～中旬)	・この時期は、成虫の交尾阻害により密度低下をはかる性フェロモン剤を用いる。効果を高めるために、広範囲一斉設置と併せて、防風垣や防風ネットを設置する。効果は1シーズン限りなので、毎年付け替える。

病害虫名	防除時期	摘 要
カメムシ類	果実肥大期	・これらの害虫は発生が見られたら、すみやかに薬剤を散布する。
ケムシ類 (イラガ)	生育期	
ハマキムシ類	生育期	
シンクイムシ類	果実肥大期 ～成熟期	・果実への食入が始まる前に、薬剤を散布する。
カイガラムシ類	(共 通)	・スモモを吸汁加害するカイガラムシ類として、ウメシロカイガラムシやナシマルカイガラムシがある。
カイガラムシ類 幼 虫	休 眠 期	・ <u>休眠期防除参照</u>
	生 育 期	・カイガラを形成すると薬剤の効果が著しく低下するので、幼虫のふ化を確認して、ふ化最盛期に薬剤を散布する。
ハダニ類	生 育 期	・梅雨明け後～盛夏期に、無降雨が続くと発生しやすい。 ・手遅れにならないよう、発生初期に防除する。 ・収穫期と重なることがあるので、収穫前日数に注意する。
スモモミハハチ	開 花 期 ～ 落 弁 期	・成虫は開花期のがくに産卵し、幼虫は落弁直後に幼果に食入するため、満開期から落弁期に薬剤を散布する。

すもも【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									かいよう病	ふくろみ病	灰星病	環紋葉枯病	黒斑病	切り口及び傷口のゆ合促進
すもも	ICボルト-412	銅水和剤	M1		-	-	200～700g/10a	散布					30倍	
すもも	アミスター1070アブル	アジキストロビン水和剤	11		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1000倍			
すもも	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	3		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布			2000～3000倍			
すもも	スターナ水和剤	チソリニック酸水和剤	31		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布					1000倍	
すもも	ストロベートライフロアブル	クレンキシムメチル水和剤	11		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布				2000倍		
すもも	チオノックフロアブル	チラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		500倍				
すもも	トリフミン水和剤	トリアルミン水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1000倍			
すもも	トレノックスフロアブル	チラム水和剤	M3		収穫14日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		500倍				
すもも	ナリアWDG	ピラクトロビン・ボスクリド水和剤	11,7		収穫前日まで	2回以内	200～700g/10a	散布		2000倍	2000倍			
すもも	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		収穫3日前まで	4回以内	200～700g/10a	散布					500倍	
すもも	ベルクトフロアブル	イミダクジンアルベシ酸塩水和剤	M7		収穫3日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			2000倍			
すもも	マイコンコート	チシテラサイクリン水和剤	41		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布					2000倍	
すもも	ムッシュボルト-DF	銅水和剤	M1		葉芽発芽前まで	-	200～700g/10a	散布		500倍			500倍	
すもも	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1000～1500倍			
小粒核果類	トップジンMベスト	チオファネートメチルベスト剤	1		【A】	3回以内		塗布						原液
小粒核果類	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫21日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1000～1500倍	1000～1500倍		
小粒核果類	フルーツセイバー	ベンチピラト水和剤	7		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布			1500倍	1500倍		
小粒核果類	マスタビス水和剤	シュートモスロピア水和剤	「-(生)」		収穫前日まで	-	200～700g/10a	散布	1000～2000倍					
小粒核果類 (うめを除く)	オルフィンプラスフロアブル	テブコナゾール・フルピラム水和剤	「-(生)」 (I*),3		収穫前日まで	3回以内	200～700g/10a	散布			3000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

スモモ【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)												
									アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ	カイガラムシ類	カイガラムシ類 幼虫	カメムシ類	ケムシ類	コスカシバ	シツメイムシ類	ハダニ類	ハマキムシ類	スモモハバチ		
すもも	アブロードフロアブル	アブロフェジン水和剤	16		収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布				1000倍									
すもも	ガットキラー乳剤	MEP乳剤	1B		【A】	1回		【Z】						100倍							
すもも	カネイトフロアブル	アセキシル水和剤	20B		収穫3日前まで	1回	200~700g/10a	散布									1000~1500倍				
すもも	サムルフロアブル10	クロラントリニプロール水和剤	28		収穫3日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布					2500~5000倍		2500倍			2500~5000倍			
すもも	スカウトフロアブル	トラロメトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍							2000倍					
すもも	ダントツ水溶剤	クロチアメジン水溶剤	4A		収穫3日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍			2000~4000倍									
すもも	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	"21A(1*)	劇	収穫14日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	2000倍												
すもも	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	28		開花期まで	1回	5~200g/10a	【Z】						200倍							
					収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布				4000倍	4000倍	4000倍		4000倍					
すもも	モスビー顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍		2000倍					2000~4000倍				2000~4000倍	
すもも	ロディール水和剤	フェンプロパトリン水和剤	3A	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布								2000倍					
果樹類	ハイオセーフ	スタイナーネカボカブサエ剤	「-(生)」		幼虫発生期	-	25%	【X】						2500万頭(約10g)							
果樹類	スカンパコンL	シナセキア剤			【B】		40~100本/10a	【Y】						8g/100本製剤							
小粒核果類	アデントフロアブル	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布							2000倍	2000倍					
小粒核果類	アデント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布								1000倍					
小粒核果類	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布		2000倍				イガ類 2000倍			オトコダニ 2000倍				
小粒核果類	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	9B		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~4000倍		2000倍										
小粒核果類	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	23		収穫前日まで	1回	200~700g/10a	散布								2000倍					
小粒核果類	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		収穫前日まで	2回以内	200~700g/10a	散布								1000~2000倍					
小粒核果類	マイトコーネフロアブル	ピフェネブート水和剤	20D		収穫3日前まで	1回	200~700g/10a	散布								1000~1500倍					

使用時期：【A】休眠期(落葉後~萌芽前)、【B】成虫発生初期から終期

使用方法：【Z】樹幹部及び主枝に散布

【Y】ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置

【X】虫糞が見られる所を中心に主幹部全体に散布